□はリンク　　　　　　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名	もみじの里　　　　　　　　　　※
日付	平成　21年　3 月　31　日
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）　※

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

和気の藤公園が遠くに見える田園地帯の中に平成16年3月このグループホームが開設してから、もう5年の月日が経った。母体法人の閑谷福祉会は知的障害者の自立支援を主体としているが、施設内での利用者も高齢化と共に認知症になる人もあり、このグループホームは認知症高齢者と共に生活している。どんな障害を持っていようと、一人の人間としての尊厳を大切にして、このグループホームでゆっくりとした生活の中で、幸せな人生を送ってもらえるよう管理者と職員は利用者に接している。

お客さんが来ると、お茶を出したり、挨拶をしてくれる接待役の女性利用者は、どこに居ても朗らかで元気な人。節分の巻き寿司づくりに意欲を見せてくれた。私たちの前で精一杯振る舞ってくれているが、一人になったらどんな気分になるのだろうかと少し心配する。このホームの貴婦人である。

今日、私達が訪問するに合わせて、抹茶のお手前をして振る舞ってくれるというので朝から待っていただいているというお嫁さん（？）にお会いできた。お茶の道具を持参しており、時々お茶会をするそうだ。

朝から塗り絵に熱中している女性もいた。塗り絵といっても大胆なタッチで塗った力強い絵をたくさん綴じて、たくさんの作品をみせてもらった。特に花が好きで、色々な色を使った目立った作品となっていた。リビングルームにも彼女の作品が飾ってある。

他の人も話してみると、得意な事があったり、自分の歩んできた人生の中にしっかりと自分の存在を持っている人や、謙遜しながらも自分の宝物を持っている人もいた。

お昼ご飯の時に皆テーブルに集まって昼食を一緒にして賑やかに過ごすことができた。その時思った事は、この人達それぞれに"自分らしさ"を持っているなあと素直に感じた。

3年前、現在の管理者が法人母体の知的障害者施設からこのグループホームに赴任してきた。その当初、管理者と話しをしていた時に、この人はホームの運営やケアについて論理的な感覚で考える人だなあと思った事がある。高齢者の介護者はどちらかと云うと大まかで人間の事も曖昧な捉え方をしていることが多いと思ってきたが、ホームの業務について改善していこうとするプロセスがしっかりとしていて、これからケアマネージメントの中でもアセスメント～介護計画～記録～カンファレンス等の管理システムも合理的な手法と様式が見出されるような気がして、今後が楽しみだなあと思った。このような考え方が、日々の利用者に対する接し方によって自然に活力が生まれてきているのかなあと思った。これからのこのホームの成り行きが楽しみである。

特に改善の余地があると思われる点

利用者のケアについて多面的にするのでなく、一番波及効果の高いケアを集中してすることが必要と思うが、そのためには利用者の身体的、精神的な現況をしっかり把握し、その経時的変化を継続的に見ていく事も必要と思うので、能力、機能チェックの方法を考えてもらいたいと思う。協力しあっていきましょう。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	1、 自主評価について･･： 開設以来の理念はあるが、これから地域等も巻き込んだ理念の作成を検討している。管理者の考え方からして、利用者の病気や障害をしっかりと考慮して、それぞれの人生をどう支えていけば良いのかを、このホームのしっかりとした方針としてもらいたいと思う。 2、 全体的に見て･･： ①利用者に対しては、障害になった前後の状態を問わず、一人の人間として接し、安心と信頼を持ってもらえるようにしたい。②職員とよく連携を取り、よく理解し合えた者同士として辞めない職場をつくりたい。③笑顔の多い職場で、楽しく仕事をしたい。これが管理者が持っているモットーであると話してくれた。		

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、 自主評価について･･： 生活空間として、このホームでこれ以上改善する所はない。 2、 全体的に見て･･： このホームが開設した当時、玄関から見たリビングルームでの生活の場が落ち着かないという事があり、多少改良した所もあったが、現在は大変落ち着いた共用空間になっている。食堂の場所からベランダへ出て、洗濯物を干したり片付けながら外の田園地の広がりを眺めると気持ち良さそうであるが、認知症になるとこのような感覚が薄れてしまう事は残念である。前面の広い空地もこの法人の持ち物だそうで、これからの拡張事業も楽しみである。このホームには3つ位の散歩コースがある。今日も利用者と一緒に出掛けたが、小川の中の魚の住まいを利用者が見つけたそうだ。周辺を散歩していると何か夢がありそうだ。		

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	評価不能	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス (つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	評価不能	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、 自主評価について･･： 管理者と話しをしていると、改革意欲があり大変楽しい。介護計画の充実のため、モニタリング方式とアセスメント様式について改良してきたいと考えている。この機能が一番大切なことだと思うので、成果を期待したい。 2、 全体的に見て。･･： このホームの運営方針に「認知症高齢者に対する個人の自由、尊厳、プライバシーを尊重する」とある。大変重要なことであり、これについての考え方を聞いてみた。『嬉しかったら笑う、喜ぶ。悲しかったら泣く、怒る。このような人間の感情を素直に受け止め、その人らしさ全てを受け入れていくようにする。その反面、排泄に対する職員の行為や言動は大切である。排泄時にはトイレでタオルを掛けてあげる。又、夜のパット交換時も、部屋を暖め、清拭の準備をちゃんとしてから“ゴメンナサイ。待っててくれる”等何げない声かけをする。又、自分のできる事は出来るだけしてもらう。そして人の思いを大切にする気遣いが必要である』。		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	1、自主評価について･･： 運営体制についての改善事項はないが、地域との交流について考えていきたいと考えているが、先ずはホーム内での利用者と家族、そして職員との絆が一番大切であろう。 2、 全体的に見て･･： 管理者のモットーの中に、職員が安定している職場がある。ホームにとって、馴染みのある職員と利用者の関係が長く続く境遇は一番大切であろう。特に“グループホームが一番楽しい住むところ”と利用者に言わせる生活の場を作るのが、このホームの職員のプロ意識となる。そして、個性が強く、その人らしい力が発揮してもらえるホームづくり、お互い認め合える仲間づくり、利用者同士、利用者と職員、職員同士がしっかりした関係で生活できるホームづくりを目指している。		